

「病院設備設計ガイドライン（空調設備編）」のご紹介

「病院設備設計ガイドライン（空調設備編）-病院空調設備の設計・管理指針- HEAS-02-2022」が、日本医療福祉設備協会より先日5月30日に発行されましたのでご紹介します。

「病院空調設備設計・管理指針」は、1989年に初版が発行され、2004年（HEAS-02-2003）、2013年（HEAS-02-2013）とほぼ9年おきに改訂されてきました。今回の改定もこれまで同様に病院空調設備を取り巻く環境の変化や技術の進歩など、最新の知見を反映したものとなっています。

病院空調設備を取り巻く環境の変化では、地球環境保護を前提とした建築物の省エネルギー、再生エネルギー利用、ゼロカーボンへの取り組みなど、その根底にあるものは社会の持続可能性の追求、すなわちSDGs達成への取り組みにほかならず、前回の改定から一貫して継続されています。

今回改訂で特記すべきものは新型コロナウイルス感染症対応です。感染制御と室内環境のエビデンスの明確化、厚生労働省をはじめとする諸団体の「基準」との不整合などは、前回改訂時より課題となっていました。エアロゾル感染という新たな感染経路の出現で、病院空調設備の換気性能にさらなる検討が必要になりました。改訂は現段階での最新のエビデンスに基づいていますが、今後さらに集積される新たな知見は、調査・分析をして追補として発刊されることになっています。



本書の特徴は以下の通りです。

- ・推奨項目ごとに「**推奨の強さとエビデンスの質**」を明示している。

推奨の強さは強い推奨、弱い推奨、未解決の事項に分類、エビデンスの質は高い、中等度、低い、非常に低いに分類されており、必然性が低い項目は弱い推奨、さらにエビデンスの質が低いものは未解決の問題として記されています。（表1）

- ・改修工事の内容と工事場所からリスクを分析して対策を実施する**感染管理リスクアセスメント（ICRA）**を記述している。
- ・**COVID-19**については、1~2年ごとにアップデートすることで、世界の潮流を積極的に取り込んでいけるように Appendix に記述している。

表1. 推奨の強さ・エビデンスの質のマトリクス

エビデンスの質 Quality of Evidence	推奨の強さ Strength of Recommendation		
	強い推奨 Strong	弱い推奨 Weak	未解決の事項 Unresolved issue
高い High	I A	II	
中等度 Moderate			
低い Low	I B		III
非常に低い Very low			

推奨の強さ

I	強い推奨 (Strong recommendation)
	I A : 強いエビデンスがある推奨事項
	I B : 弱いエビデンスがある推奨事項
II	弱い推奨 (Weak recommendation)
III	未解決の事項 (Unresolved issue)

エビデンスの質

High	大規模・複数施設におけるCohort-study, Randomized controlled trial, Meta-analysisで有効性が確認されている
Moderate	小規模・単一施設におけるCase-control, Cohort-studyなど対照群のある観察研究で有効性が確認されている
Low	Case report, Case seriesなど対照群のない観察研究で有効性が確認されている、 <i>in vitro</i> (実験, 数値解析) で有効性が示唆されている
Very low	慣習的かつ理論的妥当性は認められているが、有効性は明らかではない

目次

1. 概要
2. 医療施設の感染対策
3. 室内環境
4. 部門別設計指針
5. 空調方式・機器
6. 運転・保守
7. 省エネルギー
8. 災害対策
9. 課題と対策

Appendix A. 微細な飛沫やエアロゾルを介した伝播様式と対策

Appendix B. COVID-19 対応のために実施された運転管理の事例

出典：「病院設備設計ガイドライン（空調設備編）-病院空調設備の設計・管理指針- HEAS-02-2022」

書籍購入については、(一社)日本医療福祉設備協会HP <https://www.heaj.org/book/book.html> をご参照下さい。

空調設備ニュース

- 編集 技術委員会空調部会
- 発行所 (一社)大阪空気調和衛生工業協会
大阪市中央区安土町1丁目7-20 新トヤマビル3階
TEL.06-6271-0175 FAX.06-6271-0177
URL.<http://daikuei.com/>